



北・その自然と人

札幌市博物館活動センター情報誌 ミューズ・レター

Muse Letter

札幌市博物館活動センターは自然系総合博物館の計画推進のため、市民とともに教育普及活動、展示・交流、調査研究、資料収集保存を行う活動拠点です。

2013.10 No.54 発行・札幌市博物館活動センター

〒060-0001 札幌市中央区北1条西9丁目 リンケージプラザ内5階

TEL 011-200-5002 FAX 011-200-5003 <http://www.city.sapporo.jp/museum/>

第35回企画展「手稲山*草花繚乱」関連講演会講演録要約（10/5実施）

手稲山の植物

佐藤 謙氏（北海学園大学教授）

手稲山の植物調査の歴史としては、1918年に竹内亮が主に樹木の種類を調査し、1983年に佐藤（演者）が手稲山山頂の南壁と西～北の岩壁の植生を論文発表した。その後、1992年に原松次が著書「札幌の植物」の中で手稲山の植物も記録している。

今回、講演準備のために久しぶりに手稲山を歩いて観察し、手稲山では南方系の温帯性植物と北方系の植物の両方がみられることを改めて確認した。南方系としてはクリ、クサギ、マタタビ、タヌキラン、ジャコウソウ、サワフタギ、ヤマホロシが山麓に点在する。これらは手稲山では個体数も少ないので、人間活動の影響により消失しないよう注意が必要だ。北方系の植物についてはアジア地域との共通種が多い。これらはいわゆる高山植物が多く、後述の風穴地や崖地といった特殊な環境に生育する。

手稲山の植生の垂直分布は、1,023 mの頂上付近からふもとに向かって順に、ハイマツ群落、亜高山帯のダケカンバ林とダケカンバーエゾマツ林、山地帯の針広混交林と落葉広葉樹林となる。頂上はかつてに比べ人工物が増え、もともとわずかしかなかったハイマツ群落が消失していた。手稲山の登山ルートのうち、現在も自然植生が比較的多く残っているのは平和の滝コースである。

札幌付近では、亜高山帯と山地帯との境界は標高 800～900m 付近であるが、平和の滝コースの標高 700m 付近には亜高山帯に出現するハイマツ群落や北方系の植物があり、垂直分布の“逆

転現象”がみられる。これは、ここに風穴地があり、ガレ場の斜面の下部から低温の空気が吹き出して局所的に低温となるためである。

岩壁も植物にとって厳しい環境である。岩壁は土壌が少なく不安定で、栄養分も少なく乾燥し冬季は低温にさらされる。しかし植物は多肉質になったり、根茎を発達させて岩のわずかな割れ目に根を張ったりして環境に適応している（岩隙植物、岩礫地植物）。手稲山ではモイワシヤジン、エゾミセバヤ、ミヤマオダマキ、イワキンバイなどのいわゆる高山植物がみられる。

手稲山はスキー場やゴルフ場など人間の手が加わった山でもある。もとあった植生が改変された場所に野生植物が再び生えた二次植生（二次林）はテイネハイランド側に多く、カンバ属の一斉林や、ミズナラが優占する萌芽再生林がみられる。スキー場では頻繁な草刈りにも耐えられる植物が多くなる特徴的な植生や、登山道では人間に踏みつけられることで“管理”されて植生が維持される踏み跡群落（オオバコクサイ群落など）が見られる。

自然環境の保全について、近年では生物多様性の保全（生態系・種・遺伝子の多様性）が重視されてきている。しかし、花の咲く植物やシダ植物など目につきやすい植物の現状把握さえ不十分なのが現実である。今後も市民と行政、専門家との協働による現状把握の努力が必要である。

●次号のミューズレターでは同講演会の後半「手稲山のコケ」を掲載します。



「ファイターズ通り」
“斜め通り”とも呼ばれる。
通りの左手が伏籠川の河川敷。
右手に大友堀。正面がJRタワー。

川を利用した街

東区は川との縁が深い地域です。西は創成川で北区と、東は豊平川で白石区と江別市に接し、北の端ではなんと石狩川をまたいで当別町、新篠津町と接しています。そして、東区のはほぼ中央を北東方向に伸びる道、現在では「ファイターズ通り」商店街となっている通称“斜め通り”（“旧石狩街道”、道道273号花畔札幌線）も忘れてはなりません。この道は、かつてここを流れていた伏籠川の左岸に形成された「自然堤防」にあたり、やはり川に縁の深い道なのです。自然堤防とは、洪水などで川が拡大した時、その縁に沿って土砂が堆積してできる盛り上がった地形です。

伏籠川は「元・豊平川」だった流れです。1800年初頭に起こったとされる洪水で現在の豊平川に流れが変わり、残った川筋をのちに伏籠川と呼ぶようになりました。「フシコ」はアイヌ語で「古い」を意味します。

1866（慶応二）年、函館から札幌に転勤した大友亀太郎は札幌の地形を観察して歩き、もともと大きく曲がっていた市街地の伏籠川の一部を北へ直線化させ、自然堤防に沿って北東へ2km掘り進み、再び伏籠川に合流させ、用水の供給源としました。これがいわゆる大友堀です。この直線部は札幌初の直線構造物で、その後、島判官がこの直線を基準して、これに90度に交わる南1条通をつくったことで市街地の区画が進められていきました。

豊平川は国内でも屈指の急流ゆえに、これまで何度も洪水を引き起こしました。浸水するエリアを避け、周囲より一段高く安全な自然堤防にまちをつくり、必要な用水は洪水の心配のない支流となった伏籠川から得るという大友の見事な計画には心から敬服させられます。（古沢）

科学絵本よみきかせ & 学芸員の井戸端サイエンス

◆11/16(土) テーマ：サケ

絵本：ペリカおかあさんへの旅、ヒグマの楽園

◆12/14(土) テーマ：オーロラ

絵本：おそらのカーテン、おひさまはいつも、
うえにはなあに したにはなあに

ベビーカー
で入れます。
おむつシート
あります。

大人の方も
お気軽に
どうぞ！

時 間：いずれも土曜、14時～14時30分
会 場：札幌市博物館活動センター展示室内
対 象：3歳～大人
読み手：科学絵本よみきかせの会・じゅごん太

★これまでの絵本、井戸端サイエンスの内容はブログを見てね。
ブログ「じゅごん太よみきかせ横丁」
<http://blog.goo.ne.jp/takahashihotate>

